

び割れが発生しやすく多く発生が見られることを説明し、一般的であるが膨張剤をコンクリートに混入し施工することを提案した。その結果施工から数ヶ月経つが未だび割れの発生が見られない。
(写真-1、2)



写真-1 他橋梁地覆打替



写真-2 当社施工地覆打替

第2の構造上の問題について担当監督員に必要性和剥離の可能性を提案したところ、設計したコンサルに直接確認して強度上問題が無ければ、変更して作業して良いとのことであった。確認したところ、防護柵新設に当り橋面幅を狭く出来ないため外側に広くし、天端幅を床版下面まで合わせただけのことであり、変更しても強度上問題はないとの解答であった為、はつり箇所までとした。これにより少量ではあるが型枠、及びコンクリートの量の軽減となり施工費の減少となった。(図-3、4)

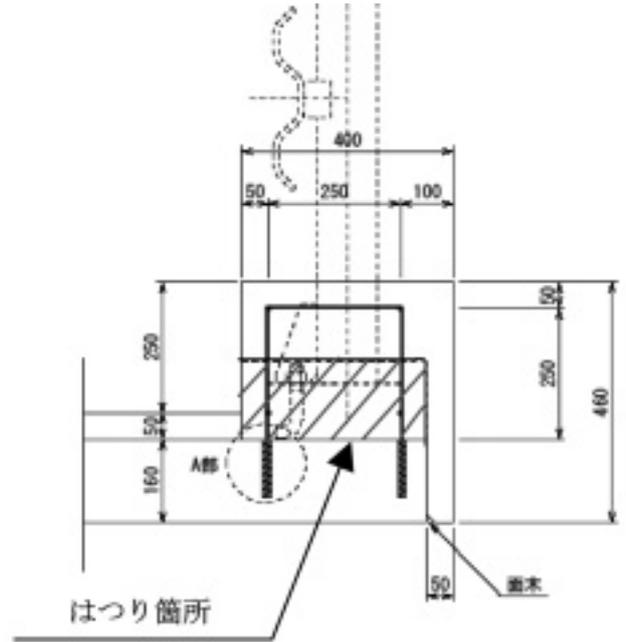


図-3 当初断面図

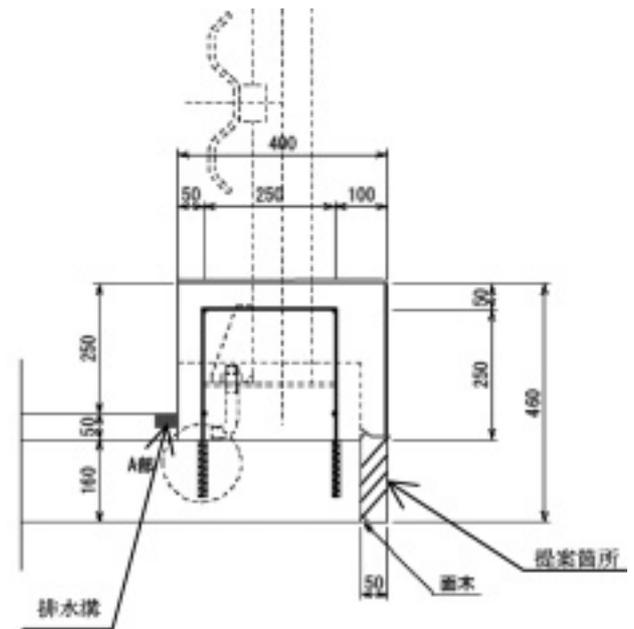


図-4 変更断面図

第3の処置として既設地覆はつり時、地覆壁面より3cm離してコンクリートカッターにより切断しはつり、地覆コンクリート復旧後、3cm幅に溝を設け、モルタルにて高さ調整し、排水管に流水させ、確水しないようにした結果、確水が無くなり出来上がり美映えが良くなった。(図-4、写真-3、4、5)



写真-3 施工前



写真-4 施工後



写真-5 施工後（排水溝）

4. おわりに

今回施工に於いて設計図書の確認は当然のことであるが、新設の物であれば見栄え、形状はある程度定められた形になるが既設との取り合わせについては、見た目だけでなくそのものが必要であるか吟味して意見を提案していく事が必要だと思った。

又、コンクリートのひび割れの抑制対策については発注者側でも分からない人が多く、単に施工者側の施工のまずさと考えているようで、設計時は通常のコンクリートで考えており抑止対策は施工側の承諾行為で経費は業者負担である。今回の施工量は少しであったがコンクリートの使用量が多いと結構な物である。発注者にも今後理解していただくよう今後の工事でも、提案、説明し抑止対策が設計内容に盛り込まれるよう努力したい。